

ご飯も心もあたたかい学校給食を



こんにちは

岸本のり子です

発行 日本共産党

連絡先 大津湖西地区委員会

日本共産党大津市会議員

岸本のり子

大津市和邇春日2丁目

ケイタイ 08031163877

2012 4/15 117

日本共産党

市長選挙で、中学校給食が大争点に！
新市長のめざす給食は？

越市長は新年度予算に「中学校昼食調査費
157万5千円を計上し、検討委員会を設け
るとしました。

2月議会、日本共産党は、石黒賀津子市議が
中学校給食について質問。
越市長は

「給食センターを建てて給食の実施となると
5年程度の期間と20億円〜30億円の費用が必
要。保護者の早期実現の要望に応えるため業者
による配食サービスと考えている」と答弁

さらに、「教育の一環としての中学校給食」
をどのように考えているのかという質問に、
「中学校における食育については、技術家庭、
保健体育などの関連する教科において食生活と
健康について学べる」と答えています。

「給食は学校という家で食べる『ご飯』
「お金はかかっても21世紀を担う子
どもたちの人格形成のためならば」

群馬県・高崎市

石黒市議は、1985年から合併を機に中学
校に自校方式の給食を広げ、各学校に栄養士を
配置し、地元食材を大切にして商品開発も行い、
地域経済にも貢献させている高崎市を紹介

ある栄養士さんは「給食は学校という家で食
べるお昼ご飯。地元の産物をおいしいと感じ、本
物の料理を食べたいと感じてほしい。こうした思
いで栄養士はメニューを考え、調理師は子どもた
ちが食べている顔を思い浮かべて給食をつくる」
と述べています。

高崎市前市長は「自校方式はお金がかかるが、
豊かな食事によって豊かな心、人格が形成され
る。21世紀を担う子どもたちの人格形成のため
ならば教育費の増加は未来に対する効率的な投
資」と述べています。

市民の世論や運動を広げて前進させましょう

通学費の全額支給や中学校給食が
当たり前のように、実施されてきた！
旧志賀町

JR湖西線が開通したのが、1974年、今
から38年前。旧志賀町では、その3年後、19
77年に志賀中学校総合校舎が建てられまし
た。

南北に18kmにおよぶ細長い志賀町で、一つの
中学校を建設することで、当然、地域紛争が起
こりました。

しかし、その問題解決は、生徒の通学費を全
額支給することや、中学校給食の実施、学校設
備を充実することでした。

35年も前から志賀中学校では自校方式の給食
が実施されてきたのです。

小・中学校ともに地域の商店や農家と連携、地
域の活性化に役立ちました。

当時入学し、調理員さんの温かい手づくりの給
食を味わった人たちは47才になっています。

「おばちゃん今日のメニューはなに？」

「お昼前になると、いい匂いがきてきて昼食が楽
しみだった」・・・などなつかしく思い出して
います。

6年前の大津市との合併で、旧志賀町が実施していた自校方式
の給食はセンター方式になり、中学校給食は「当分の間」とされま
した。わたしは議員になって5年間、アンケートなど実施しながら
「志賀町の給食を残し、全市に広げよう」と定例議会20回のうち1
2回にわたって一般質問を行いました。1月の市長選挙で中学校
給食は大きな争点となりました。新市長は希望者のみに提供する
業者弁当を考えていますが、震災を経験した今こそ、食育・地産

地消を重視して、生産者、調
理員さんの絆が感じられるご
飯も心もあたたかい給食の
実現にがんばります。

大津市議員
岸本のり子

2005年7月撮影

当時、志賀中の生徒に一番人気のカレー

